

にこにこ きらきら ゆめにむかって



おともがわ

学校報 No.12
保護者版
平成 30 年 6 月 6 日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

大曲支援学校との交流会「ハローの会」

今年で 24 年目となる大曲支援学校との交流会に行ってきました。

障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会を実現するためには、障害のある人と障害のない人が互いに理解し合うことが不可欠であり、障害のある子どもたちと障害のない子どもたち、あるいは、地域社会の人たちが、ふれ合い、共に活動する機会を設けることが大切だと言われています。

また「インクルーシブ教育」ということが最近頃に言われるようになってきました。インクルーシブ (inclusive) とは、「包括的な」「包み込む」という意味です。障害の有無によって学ぶ場所が分けられるのではなく、一人ひとりそれぞれの子どもの能力や困りごとが考慮された、「すべての子どものための教育」という意味で使われています。これまでは、障害のある人は必ずしも社会参加できるような環境にありませんでした。しかし、これからは障害のある人も積極的に活躍できる社会をつくらなければなりません。そのために、一人ひとりの子どもに丁寧に向き合う理念に基づいたインクルーシブ教育が推し進められているのです。



私が驚くのは、最近でこそ、このような考えが広まってきているものの 24 年も前から本校で支援学校との交流学習が進められてきたということです。保護者の皆様の中にも、支援学校との交流を行った方がいることと思います。このよき伝統を大切にしていきたいものです。

スポーツやゲームと一緒に楽しむ子どもたちの姿には、偏見のかけらも見られません。自然な態度で接し、優しく支えてあげる姿には、長年の交流の成果が感じられます。大曲支援学校の皆さんは、この交流会のために時間をかけ、そして心を込めて準備をしてくださったことと思いますが、その温かさにも感激しました。今度は秋に本校で「ハローの会Ⅱ」が行われますが、一層の充実を目指していきたいと考えています。

